

平成20年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第62回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成20年 5月31日(土)	ひたちなか市総合運動公園体育館	大会1日目	Dコート	第5試合 15:00~
<チームA> 習志野市立習志野 千葉 4位		76 { 17 1Q 15 } 75 { 15 2Q 24 } { 22 3Q 15 } { 22 4Q 21 }		<チームB> 國學院大學久我山 東京 8位

【Bブロック】

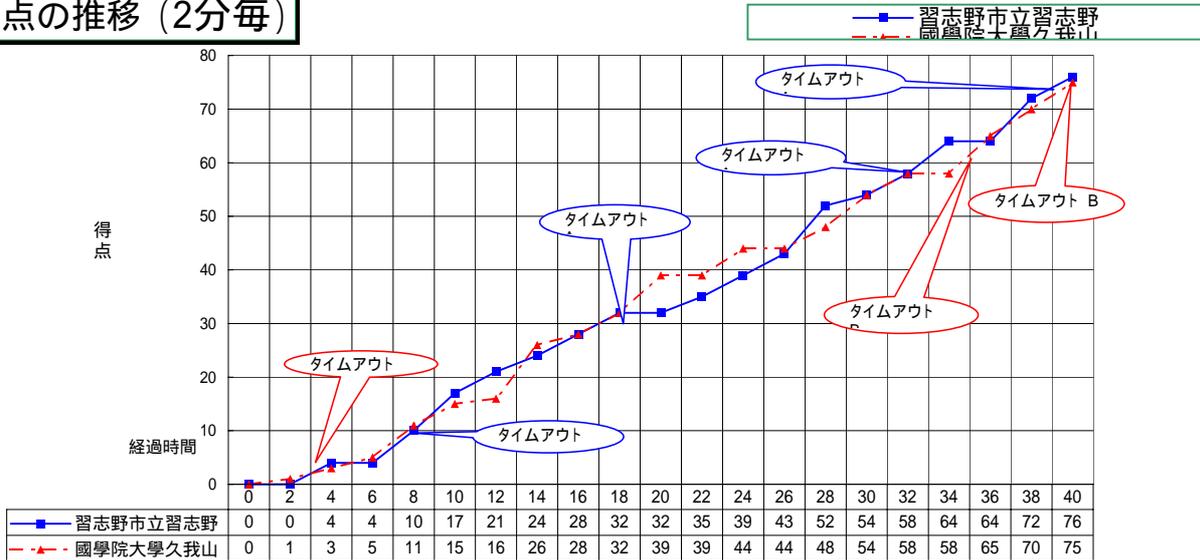
主審： 茂泉 圭治(神奈川) 副審： 山崎 雅洋(栃木)

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	藤澤 圭佑	26	1	11	1	
	5	小澤 琢弥	5	1	1		2
	6	臼井 拓也	19		7	5	2
	7	種谷 佳祐	8		3	2	4
	8	田中 雅人	6		3		2
	9	福島 茂貴					
	10	相内 聡					
	11	宮澤 優作	4		2		1
	12	西 雅隆	8		4		3
	13	音羽 亮佑					
	14	長久保 明斗					
	15	河合 裕二					
	16	細貝 航平					
	17	新木 隆寛					
	18	原目 光					
コーチ		内田 雅康					
合計			76	2	31	8	

S	No	選手名	得点	3P	2P	FT	Foul
	4	山内 純哉	2		1		
	5	平山 翔太	16	3	2	3	
	6	山本 佳弘					
	7	高橋 玲	3	1			3
	8	綴木 将	12		6		2
	9	山本 昂宏					
	10	高橋 智行	17	4	2	1	4
	11	丸山 昇吾	14		4	6	5
	12	吉田 裕太郎					
	13	森淵 寛隆					
	14	並木 一晃					
	15	本多 和将					
	16	小原 汰己	11		5	1	
	17	中村 拓貴					1
	18	杉本 武丸					
コーチ		酒井 良幸					
合計			75	8	20	11	

：スターター / 出場 / 3P:3点シュート成功本数 / 2P:2点シュート成功本数 / FT:フリースロー成功本数

得点の推移 (2分毎)



戦評

記入者： 大里 浩

第1P、両チーム、ハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。習志野は 藤澤のドライブインや 西のミドルシュートを攻撃の軸にし、得点をする。久我山は序盤、ドリブルミスがあったが、 綴木のミドルシュートや 高橋の素早いドライブインを中心に得点をする。お互いにシュートを放つが、主導権を握るまでには至らず、17-15習志野リードで第1Pを終了する。

第2P、習志野は 西のアウトサイドシュートを皮切りに 藤澤のドライブインや 小澤の3pシュート、 種谷の力強いインサイドプレイでゴール下でファウルを誘い、着実に得点を重ねる。一方、久我山も 高橋のドライブインや3pシュート、 平山の3pシュートで主導権を握らせず、残り1分には 中村がチャージングを誘うディフェンスで勢いをつける。互いに譲らない展開は、32-39久我山リードで折り返す。

第3P、激しい攻防が続く。習志野は 藤澤を中心にドライブインで得点を重ねる。全員でオフェンス、ディフェンスを繰り返して、相手のミスをしっかりと得点につなげていく。一方、久我山も速いパス回しからオフェンスを展開、 高橋の3pシュートも決まり、一進一退の攻防が続く。54-54と同点で両チームとも第4Pに望みをつなく。

第4P序盤、習志野は 臼井のゴール下からの先制点から 藤澤のミドルシュート、 田中のドライブインで久我山に6点差をつける。たまたま久我山もタイムアウトを取り、アウトサイド中心のオフェンスからドライブインへとオフェンスのパターンを変える。ゴール下で着実に追いつけた久我山は残り3分 平山の3pシュートで66-67と逆転に成功する。しかし、習志野はひるむことなく 藤澤の速攻や 種谷のゴール下でのオフェンスで踏ん張り、フリースローから76-75と再逆転に成功する。残り20秒久我山ハーフからのスローインであったが、習志野が必死のディフェンスを見せ、得点を許さず、そのままゲームセット。習志野がベンチ、観客も一丸となった勝利を掴み、明日につなげた。